

- 地域に根付くものづくり産業が先端技術と伝統技術の融合で進化し、兵庫の企業が世界になくはない存在となり、地域経済を牽引しています。
- 各地の地場産業がデザイン性や物語性を武器に存在感を高め、国内外でファンを獲得しています。事業が継承され、地域の持続的発展に貢献しています。
- 兵庫の企業が高度にデジタル化し、データ活用から新たな価値を生み出しています。公的サービスへの企業参入も進み、公民連携で利用者の満足度の高いサービスが効率的に提供されています。
- 住み働く地域の中での人と人のリアルなつながりから創造的な仕事が次々と生み出され、住民に応援されながら小さなビジネスとして自立しています。
- 地域の内外を問わず志を共有する人々がチームを組

- み、地域の資源を活かして地域の課題解決に挑むコミュニティビジネスが盛んに行われています。
- 地域の需要に応える事業を行う組合を住民が出資して設立し、自ら働き手として事業に従事する労働者協同組合や、地域内でギグワーカー（独立業務請負人）が仕事をシェアして事業を営むスタイルなど、地域で仕事を担い合う形が広がっています。
- シェアリングエコノミー（個人が保有する資産やスキルを他人に利用させる取引）やサブスクリプション（定額使い放題のサービス購入形態）が定着し、地域内でモノを使い合う関係が広がっています。
- 廃棄物を資源に変え、化石燃料にも依存しない循環経済への転換が進んでいます。持続可能性と収益性を両立する地域経済が実現しています。

〈アクション例〉

- 中小企業の異業種交流を進めよう。
- 中小企業のデジタル化を進めよう。
- 地域の企業を買い支えて応援しよう。
- 地域の課題解決に挑戦する人材を育成しよう。
- 労働者協同組合を活用して住民が自分たちで働き方を決められる仕事を作ろう。

- シェアリングエコノミーを使いこなそう。
- 持続可能性を志向する企業を応援しよう。

広がる「サーキュラーエコノミー（循環経済）」

3Rを更に推し進め、材料調達、製品設計の段階から資源の回収と再利用をめざす産業のあり方のことです。シェアリングビジネスも含み、欧州では新たな雇用を生む経済活動として成長戦略の中核に据えられています。

- 気候風土の異なる五国それぞれの特性と、都市近郊の立地を活かし、地域経済を支える多様な農業が持続可能な形で力強く展開されています。
- 農業経営の法人化・大規模化や企業参入が進んでいます。オリジナル品種のブランド化や加工品開発、農家レストランの運営など6次産業化により小規模でもきらりと光る生産者も活躍しています。
- コウノトリ育む農法に代表される環境創造型農業の先進地になり、人と環境にやさしい農業が隅々まで浸透しています。地産地消が徹底され、農業生産における脱炭素化も進んでいます。
- 農業が障害のある人など多様な人が活躍できる産業になっています。副業・兼業、時々手伝う、土地を出す、買い支える、SNSで応援するなど様々な関わり方で地域の農業を支える形も広がっています。
- ICTの活用により畜産業の生産性が向上し、高品質の畜産物が安定的に生産されています。但馬牛・神戸ビーフは世界の需要に応えています。
- 多様な生き物を育む豊かで美しい海の再生と水産資源の適切な管理手法の確立により、瀬戸内海でも日本海でも持続性の高い漁業が営まれています。
- 自動水管理や施設園芸における環境制御など、営農条件に応じたスマート農業が広がり、省力・高品質の生産技術が多様な農業を支えています。自動化された施設での食料生産も広がっています。
- 安全で信頼できる農林水産物が安定供給されています。食べ物を大切にする意識が高まり、本来食べられるものが捨てられることなく活かされています。必要とする人に食が行き渡る社会になっています。

〈アクション例〉

- 地域みんなで話し合って、農地を有効に活用しよう。
- 法人化を進めよう。スマート農水産業に取り組もう。
- オリジナル品種のブランド化や6次産業化を進めよう。
- 農業体験をするなど、地域全体で農業に親しもう。
- 地域一体で環境創造型農業の取組を進めよう。

- 但馬牛・神戸ビーフブランドを広く世界に発信しよう。
- 川の上下流の連携で豊かな海を作る取組を進めよう。

「環境創造型農業」とは？

農業の自然循環機能の維持を図り、環境への負荷を軽減するため、土づくりを基本として、化学的に合成された肥料及び農薬の使用を低減する生産方式のことです。

- 兵庫が誇る超高速の通信基盤と基幹道路ネットワークをはじめとする充実した交通基盤が活発な社会経済活動を支えています。県内を覆う道路網は自動運転に対応しています。多様な乗り物を自由に選択して動き回るMaaSの仕組みが整い、あらゆる地域で移動手段が確保され、乗り物のシェアリングサービスも広く普及しています。自転車道が整備され、自転車を通勤・通学や観光で使う人が増えています。
- 犯罪や事故の少ない安全な地域になっています。高度なセキュリティ対策により、社会経済活動が行われるバーチャル空間の安全性も守られています。
- 社会基盤の強靱化・長寿命化が一層進んでいます。災害予測システムや救助ロボットなどICTを活用した高度な防災・減災対策が社会に浸透しています。
- ハード・ソフト両面の対策が進み、風水害や地震・津波の被害を最小限に抑えるまちづくりが進んでいます。ハザードマップをもとに居住地を選ぶ、過密な都市の暮らしを避けるなど、災害や感染症のリスクに強い暮らし方を志向する人も増えています。
- 巨大災害や未知の感染症にも迅速に対応できる危機管理体制が整っています。災害からの復興策を事前に準備する回復力の高い社会になっています。
- 地域で助け合う共助の文化が浸透しています。過去の災害の経験を活かし、感染症を含むあらゆる危機に力を合わせて対処する地域になっています。
- 災害発生後は、兵庫から世界へ広がった、前より良い社会を創る「創造的復興」の考え方から、産業、地域が新しい時代に相応しい姿に復興しています。

〈アクション例〉

- 自動車や自転車のシェアサービスを広げよう。
- いろいろな危機に柔軟に対応できる危機管理体制を整えよう。BCP（事業継続計画）を整備しよう。
- インフラの長寿命化と集約適正化を計画的に進めよう。
- 防災・減災にもっとICTを活用しよう。
- 防災について地域の中で話し合う場を作ろう。
- 災害のリスクを見える化し、一人ひとりが防災に取り組

めるようにしよう。

- 災害のリスクを考えて、住む場所、働く場所を選ぼう。

「MaaS（マース）」とは？

Mobility as a Serviceの略称です。バス、電車、タクシー、シェアサイクルなど、あらゆる移動手段を一連のサービスとして組み合わせて検索・予約・決済等をシームレスに行うサービスのことです。